

平成19年度第1回理事会議事概要

日 時 : 平成19年4月20日(金) 13:30~14:30

場 所 : 特別会議室

出席者 :	理事長	鈴木 和 夫
	理事(企画・総務担当)	川 喜 多 進
	理事(研究担当)	石 塚 和 裕
	理事(育種・森林バイオ担当)	田 野 岡 章
	監事	林 良 興
	監事	木 下 紀 喜
	総括審議役	高 木 茂
	審議役	島 津 義 史
	企画部長	志 水 俊 夫
	総務部長	金 澤 弘 行

1. 開会

2. 議事

(1) 統合後の森林総合研究所の主要会議について

(鈴木理事長)

<資料1: 統合後の森林総合研究所の主要会議により説明>

理事長の下に月一回の理事会と年一回の研究評議会があり、日常の様々な運営については週一回の研究運営会議・研究戦略会議・育種幹部会、これら全体を情報共有する隔週の運営会議と年一回の研究推進評価会議・育種業務推進会議で行う構図である。

さらに理事長と運営会議をつなぐ非公式の会議として理事懇談会(随時)と研究員懇談

会（随時）を設置する。また様々な運営に関わる用件を周知のため隔週の連絡調整会議、さらには年三回の研究所会議を開催する。

（鈴木理事長）

本件については説明のあったとおり了承する。

（２）平成１９年度の会計監査法人の選出について

（金澤総務部長）

<資料２：平成１９年度の会計監査法人の選出についてにより説明>

本件は独立行政法人通則法３９条の規定に基づくもので、理事長は監事の同意を得た上で候補者名を決定するもの。候補者は新日本監査法人で、その理由としては①平成１８年度に森林総研の会計監査人として選任されその業務に携わってきたこと、②監査契約の履行に当たっては誠実かつ着実に実施してきたところであること、③平成１９年度に当たり提案書を提出させその内容を検討したところ、実施体制として複数の公認会計士等を配置し適切な対応がなされることが期待できることからである。今後の予定としては本理事会で承認後に決済の上、大臣に上申したい。

（鈴木理事長）

監査責任者としての社員は役員なのか。

（石塚理事）

監査法人における代表社員は３１８名である。監査法人は株式会社のような形態ではないのでこのような形態が可能である。

（林監事）

現在監査にかかる費用はいくらか。

（金澤総務部長）

平成１８年度の旧森林総研の実績は約７３０万円である。従来の林木育種センターはその規模から義務ではなかったが、平成１９年度からは統合後の新組織全体が監査を受けることになる。

（鈴木理事長）

本件については説明のあったとおり了承する。

（３）平成１９年度研究コーディネータの業務分担について

（志水企画部長）

<資料３：平成１９年研究コーディネータ（COD）の業務分担についてにより説明>

本件は今回４月１日付の異動により出入りがあったことから理事会の承認を得るもの。また、担当重点課題については平成１８年度と同様である。

さらに、特命事項については山本 COD については「知財戦略」が今後重要であることに鑑み、追加している。加藤（正樹）COD の「環境報告」も同様である。加藤（隆）COD は全体の総括として各 COD との調整を行うことから「総括」としている。中島 COD は育種センターと森林総研との育種部門の調整のため「育種調整」と人材育成の重要性に鑑み、「人材育成」も担当する。

（鈴木理事長）

本件については説明のあったとおり了承する。

（４）「花粉症発生源対策プロジェクトチーム」の設置について（報告）

（志水企画部長）

＜資料４：「花粉症発生源対策プロジェクトチーム」の設置についてにより報告＞

本件は農林水産省として花粉症発生源対策を早急に講ずる必要があるとの行政ベースでの重要な案件となってきたことから、４月６日に林野庁内に「花粉症発生源対策プロジェクトチーム」を設置したものである。農林水産大臣自ら記者発表し、ニュースになったところである。チームのメンバーとして当研究所の研究職員が２名参加しているものである。

４月１９日には大臣を招き、看板を掲げ本格的な活動がスタートしたものである。

（鈴木理事長）

本件の報告については了承する。

（５）その他

次回の第２回理事会は５月２５日（金）を予定する。

３．閉会